

大豊グループの主力製品であるエンジン用軸受。その中において市場から注目を浴び、売上を拡大している「樹脂コーティング軸受」。

従来品に比べ低摩擦性、静粛性に優れ、搭載される自動車の燃費改善に貢献する製品です。

当社にとって、初となる「樹脂コーティング軸受の海外現地生産」に取り組むプロジェクトが発足。携わった担当者に話を聞いてみました。

インタビューア-:制作事務局



左から調達部:森山 研究部:吉見 第1生産技術部:太田 経営企画部:小田

プロジェクト発足の狙い

このプロジェクトの目的を教えてください。

小田 「すべり軸受No.1」を目指し、軸受事業の拡大に向けてグローバル生産に取り組んでいます。「北米顧客からの新規受注」と「北米拠点(以下 TCA)の経営基盤強化」を狙い、海外拠点初の樹脂コーティング軸受の現地生産を、2015年6月をターゲットに進めています。



2001年に量産を開始した樹脂コーティング軸受。アルミまたは銅の軸受面に樹脂と固体潤滑剤を配合して塗布した軸受で、低摩擦性や静粛性に優れる。自動車の燃費改善に寄与し、高い評価を頂いています。

現地生産を実現するための役割

初の現地生産における企画のポイントは何ですか？

小田 現地の法令に適合した生産の実現です。原材料の輸入及び使用の許認可申請、作業環境やインフラの条件設定など現地法令への適合に苦労しました。法規適合はTCA及び関係部署のご協力があったことができました。

材料設計において苦労した点はどんなことですか？

吉見 「コーティング材料の性能確保」が私の役割です。現地調達材が性能に与える影響について検証しトライを重ねました。一方でお客様への供給リスクを回避するため、国内からのバックアップを想定し、同様の輸送条件を設定し原材料の空輸トライも行いました。

材料の現地調達に際し、意識したことはなんですか？

森山 現地において、「適正な性能を確保する原材料調達」と、「QCDを考慮し安定調達を実現できる仕入先選定」です。TCAと連携し現地におけるサプライチェーンの構築を行いました。

タイハウコーポレーションオブアメリカ
1996年工場新設、主に北米に拠点を置く日系および北米自動車メーカー向けの軸受を生産する

売上高 35億円(2013年度)
従業員数 120名



生産ラインの立ち上げにはどんな点を重視しましたか？

太田 樹脂コーティング軸受ラインの海外設置は私の所属する第1生産技術部にとっても初の試みでした。現地のインフラに関する条件を幅広くチェックし、日本と異なる点を設備仕様に漏れなく反映しました。また、製法のシンプル化など改良も加えました。

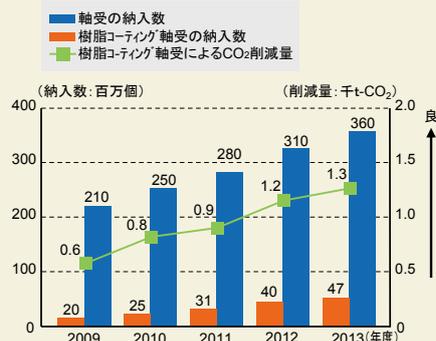
小田 TCAにとっても初めて取り扱う製品ですので、TCAから3名が来日し、同製品を生産する大豊岐阜(株)において研修を実施しました。第1生産技術部の指導の下、樹脂コーティング軸受の製造全般に関わる知識を習得しました。

この経験の活かし方

太田 今後、量産に向けての準備に入っていきます。生産準備で得た経験、生じた課題等を、今後予定されているライン増設に活かし、より標準化されたライン作りを目指します。

小田 付加価値の高い樹脂コーティング軸受の拡大に向け、他地域においても事業展開を考えています。今回は手探りで進めてきた部分もあり、立ち上げに多くの工数がかかってしまいました。次の地域における生産準備では、今回の知見を活かした迅速な立ち上げが実現できると思います。更なる樹脂コーティング軸受の拡大に寄与したいです。

このプロジェクトにより、TCAで樹脂コーティング軸受の現地生産がはじまり、「燃費改善に貢献」する製品のグローバルな拡大が期待されます。



企業成長 と 社会貢献 の両立